

第4回杉並区立杉並第五小学校・若杉小学校統合協議会（建設部会）議事録（要旨）

会議名	第4回杉並区立杉並第五小学校・若杉小学校統合協議会（建設部会）
日時	平成18年8月4日（金）午後1時00分～午後5時15分
場所	杉並第十小学校、杉並第五小学校 多目的室
出席者	統合協議会建設部会委員23名（委員5名欠席）
事務局	8名（学校適正配置担当課長、営繕課長、学校適正配置担当係長、校舎改築担当係長、営繕係長、担当職員3名）
傍聴者	1名
次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 杉並第十小学校視察</li> <li>2 開会（杉並第五小学校1階多目的室）</li> <li>3 設計業者紹介</li> <li>4 資料説明</li> <li>5 学校事例紹介（部会長）</li> <li>6 質疑応答</li> <li>7 事務局からの連絡事項</li> <li>8 閉会</li> </ol>
資料	<p>資料1 統合新校建設検討資料</p> <p>資料2 エコスクールパンフレット</p> <p>資料3 学校施設標準による、校舎面積表</p>

## 1 杉並第十小学校視察

## 2 開会

## 3 設計業者紹介

設計業者は指名競争入札の結果、(株)佐藤総合計画に決定し、今回の協議会から出席します。

## 4 資料説明

### [資料1：統合新校建設検討資料]

- ・ 今後こんな視点で校舎改築を考えてみてはどうかという杉並区の方針を示した資料になっています。
- ・ 今後100年使えるような、長いスパンで十分機能できるような校舎づくりを目指します。そのためには、構造についてだけでなく、建物の中身についても、今後の教育内容の変化に対応できるような柔軟性をもった教室づくりを考えていきます。
- ・ 屋上・壁面緑化や雨水利用など、エコスクールを目指します。
- ・ ユニバーサルな施設空間づくりを行います。
- ・ 安全面については地域の方との連携をとりながら考えていきます。

### [資料2：エコスクールパンフレット]

- ・ 文部科学省が作成したパンフレットです。
- ・ 太陽光発電、建物緑化、内装木質化など様々な手法がありますが、あれもこれも行うということではなく、学校ごとの特性に合わせてエコスクール化を行ってまいります。
- ・ たとえば、今年7月に改築工事に着工いたしました高井戸小学校につきましては、内装の木質化を行ったり、雨水貯留槽を設けたり、太陽光発電パネルを設置したりするなどして、できるだけ人工のエネルギーを使わずに、自然のエネルギーでまかなっていこうとしています。太陽光発電につきましては、10kw程度の発電量で、これは省エネという面もございしますが、発電量を子どもたちの目に見えるように表示するなどして、環境教育を行うという面もございします。

### [資料3：学校施設標準による、校舎面積表]

- ・ 各学校の学級数において、どのぐらいの諸室、面積が必要かという資料です。

- ・ 統合後の新校の学級数は12学級程度と推計されておりますが、少し余裕を持って普通教室を15学級分つくる予定です。

## 5 学校事例紹介（部会長）

### 杉並区立高井戸中学校（東京都）

- ・ 隣接して緑地がある恵まれた敷地にある学校である。
- ・ 建物に少し厚みがあり、通風の観点から少し難があると感じた。
- ・ 開口部が多く、敷地周りの緑が多く見える。
- ・ 正面玄関前のアプローチはバラが咲いていない時期はやや寂しい印象を受けた。
- ・ 防災倉庫は整然としていた。

### 多治見市立多治見中学校（岐阜県）

- ・ 17学級、584名の大規模な中学校。
- ・ 教室の間に多目的スペースがある。
- ・ 地域の方が通り抜けられる道がある。
- ・ いくつかの中庭があり、ケヤキが植えられている。
- ・ 屋上緑化を行っている。ビオトープも屋上にある。
- ・ 教室の窓は東西方向にあり、比較的安定した光が入ってくる。
- ・ 廊下は外部空間になっている。教室には東西両方向から風が入ってくる。
- ・ 体育館はステージの奥側も窓になっており、通風がよい。
- ・ いたるところに木陰があるので、子どもたちがお弁当を持って行って、食べたりする。
- ・ 生徒の作文には、「四季の変化が楽しめる。落ち葉拾いなど、いろいろ大変なことがある。冬が寒く、教室から教室に移動するのが大変だ。廊下は雪が降りこむと通行止めになる所もある。でも私は好きです。」とあった。
- ・ 松溪中学校も、隣接する松溪公園の緑地などと連続させることによって、非常によい風が入ってくるのではないか。
- ・ 今建てられる学校の多くが厚みのあるものが多い。従来のハーモニカ型の学校の形は夏は暑いし冬は寒いかもしれないが、明るくて風通しがよいと思う。

### 名護市庁舎（沖縄県）

- ・ 学校ではないが、クーラーを使わないことを積極的に取り入れた設計を行っている。

- ・ 木陰を多くとり、建物から近い地面の部分を暑くしない配慮をしている。それにより、建物に入ってくる熱風をやわらげることができる。
- ・ やはり、沖縄なのでそれなりの暑さがあるが、こういった気候になれば、人間が元々持っている自分で体を冷やす能力が十分に培われていくと考える。

#### 杉並区立松渓中学校（東京都）

- ・ 道路を挟んで隣に緑豊かな公園がある。
- ・ こういった周辺の緑を通ってくる風を上手く利用できるよう、校舎の計画を考えたい。

#### 太田市立休泊小学校（群馬県）

- ・ 26学級、763名の大規模な小学校。
- ・ 従来のハーモニカ型の校舎を改修している。
- ・ 耐震改修であるが、一般的な×型のブレースではなく、外側にフレームを設けて、デザインやスペース作りなどに活かしている。
- ・ 改修によってオープン教室に近い環境をつくりあげている。

#### 横浜市立港北小学校（神奈川県）

- ・ ワークショップを行い、どのような学校にするか徹底的に話合われて、改修された小学校。
- ・ 外観はあまり変わっていないが、内部は非常に変わった。
- ・ 職員室は正門から近い位置に配置され、防犯性を高めた。
- ・ 放送室をオープンにして、誰でも入れる大きなスペースにした。
- ・ 図書は図書室にまとまっているのではなく、学校全体が図書室のようになっている。教室や廊下など様々な場所に図書が置かれ、子どもが手にとりやすくなっている。
- ・ 和室など、地域の方が入れるスペースがある。
- ・ 黒板、棚、照明など、家具についても意見を出し合って、つくってある。

#### 白井市立白井第二小学校（千葉県）

- ・ 改修した小学校。装置重点主義ともいえる改修が行われた。
- ・ ありとあらゆるところに可動間仕切りが設置されている。自由に空間を構成できるようになっている。実際はあまり動かされていない。
- ・ 非常に大きな太陽光発電装置がある。

- ・ コンピューター室も非常に整備されている。
- ・ 休泊小学校、港北小学校、白井第二小学校の3校の改修費はいずれも4億円程度であるが、改修の仕方によって、それぞれの特徴が大きく異なる校舎となっている。

#### 多治見市立滝呂小学校（岐阜県）

- ・ 体育館は1階からも2階からも入れる。大きな体育館で、地域の方も活発に使用している。
- ・ 外部サッシはアルミで、内部には木製建具を多く使っている。
- ・ 教室と廊下は壁ではなく、ガラス引戸で仕切られていて、開放もできる。
- ・ 廊下は通路というより多目的スペースとなっており、畳のコーナーもある。
- ・ 担任教師用のデスクコーナーが教室の一部に設けられている。

## 6 質疑応答

### < 委員 >

校舎屋上にて、屋上緑化と太陽光発電が両立している事例はありますか。

### < 部会長 >

先程の事例の中にも屋上は緑化を中心として庇の部分に太陽光発電パネルを入れているところがあります。また、体育館の屋根に太陽光発電を設置しているところもありました。屋上で緑化と太陽光発電を場所を変えて両方実施している例はよくあります。

### < 委員 >

基本的には児童が使う校舎の屋上は緑化をし、体育館の屋根や庇など児童が使わないところで太陽光発電を行う例が多いという認識でよろしいですか。

### < 部会長 >

そうですね。

### < 委員 >

また、太陽光発電は実際にどの程度の発電量があり、学校の電力消費の中でどの程度まかなえる量なのでしょうか。

< 営繕課長 >

現在、杉並区では方南小学校と高井戸小学校の建設工事を行っておりまして、そこでも太陽光発電が設置されるのですが、大体10kw程の発電量となります。だいたい4教室分の電灯を点灯できる程度でございます。また、この両校ともに屋上緑化も併せて行っております。屋上には機械設備を置く部分もございますので、屋上全てを緑化するわけではなく、できる部分をそれぞれ行っております。

< 部会長 >

太陽光発電を設置するには非常にお金がかかります。今の段階では太陽光発電装置は、まだ十分に安くなっておりませんので、設置して、運用されて、そこで生み出されるものがあって、廃棄されるまでをトータルで考える必要があります。確かに運用している時には電気代が安くなるということはあるのですが、トータルで考える必要があります。

< 学識経験者 >

何点かお話をさせていただきます。

一つ目は、今日事務局から示されました資料1の統合新校建設検討資料についてですが、学校の建設計画をこれから始めるにあたってどういうことを目標に設定にするかを、まず議論する必要がありますので、これはこれでよいと思います。図面が出てきて校舎や体育館をどう配置するか、などの具体的な議論は後々の回で行えばよろしいので、まず、統合新校をどのような学校にしていくか議論していくことが大事です。

ただ、この資料1に示されている内容は、全国的にどこでも通用する、一般項になっていると思います。この杉並第五小学校と若杉小学校の地域が、どういう地域で、この学校の本当にオリジナルな教育目標はどんなところにあるのかということ、まず議論していただくことを期待したいと思います。

その中で、杉並区には杉並第十小学校以来のオープン教室の伝統がありますが、これをどのように総括し、どのように発展させるのか、どこが課題であって、どこが今後改善していくべきところなのかをきちんと総括しないと、杉並区の小学校計画のあり方の将来が見えてこないような気がします。

教室をただ単純に開いて、ガランとしたオープンスペースがあって、それでよいのか、とか、習熟度別編成など少人数に集団を分けての学習が杉並区に本当に定着していくのか、あるいは定着させていくべきではないか、などという議論を、学校建築の側面のみならず、教育の方法論、現場としても、そういった方向で学校を考えていきたいということを確認できるかが、非

常にこれから大事になってきます。

つまり、もう一度申し上げますと、杉並区のこれまでオープン教室の経過と、これからどうしていくかをここで確認することが大事なのではないかと思うのです。

現状では、オープンスペースに十分な家具が入っていないとか、教室の吸音性能が悪く、音環境として学習環境がどうなのかとか、大きい広々としたオープンスペースがある反面、小さなゼミ室、閉じたスペースなどをもっと考えていってもよいのではないかなど、今後長い間に渡って使える学校をつくるために、子どもたちの学習、生活空間はどうあればよいのかということをご議論していただければと思います。

二つ目は、学校建築はガラス面、つまり採光面が非常に大きいです。これは床面積の5分の1以上という規制が学校建築にはあるためですが、これは冬には非常に暖房効率の悪い、非常に断熱性能のない建物になっています。これを、たとえば、外断熱をして、ペアガラスにして、全熱交換の換気扇を入れれば、冬でもほとんどストーブを焚かなくてもよいぐらい断熱性能がよくなります。

エコスクールというと、ビオトープや屋上緑化、太陽光発電などが思い浮かびますが、学校建築の基本的な構造を考え、熱を逃がさない校舎をつくるということも重要なことです。また、冷房について一言申し上げますと、今日のような暑い日に冷房のない環境というのは子どもたちにとっては非常に辛いものだと思います。

三つ目として、国の特別支援教育の方針により、これから相当程度障害を持った子どもも、普通学級の中で共に勉強していくこととなります。あるいは、地域の方が学校を利用する中で、相当程度障害を持った成人の方、高齢者の方も利用され、この学校を拠点としているいろいろな活動をするようなことが、今後どんどん進んでいく、そういった姿を目指していただきたいと思います。

<若杉小校長>

前回の統合協議会で、杉並第五小と若杉小の教員が定期的に話し合いを行い、統合新校においてどのように新しい教育を進めていくか検討しているという状況を報告させていただきました。建設検討部会にのみご出席いただいております委員の方にはそういった情報が伝わっていませんので、今後事務局を通して情報提供をさせていただければと思います。

教育目標につきましてもこれから決定していく部分がございますが、杉並区全体の知・徳・体・食という教育ビジョンの考え方を踏まえて、この両校で行っていきたい教育内容につきましても、先日私の方で資料提供させていただきましたキャリア教育、こういったものに加えま

して、体力増強のための健康教育なども重点的に行っていきたいという思いがございます。教育内容と連動する施設建設等の考え方もおそらくそこでは出てくるのではないかと思います。

それから、ご存知のように若杉小には心身障害学級が2学級ございます。統合新校においても特別支援教育の中で継続していくのではないかと見通しがされています。地域の中の拠点という部分と併せて、校内でも児童の特別支援教育の体制を踏まえたユニバーサルデザインを考えていかなければならないと思います。

いずれにいたしましても、今日提供していただいている話題は教育内容とも非常に関わってまいりますので、私ども教職員の中で検討している内容につきましても、こちらの建設検討部会と連動する形で、今話題になっている部分、求められている部分を再度具体的にどこまでできるのか、検討してまいりたいと思います。

<杉並第五小校長>

三点申し上げたいことがございます。

一点目は、杉並区の教育ビジョンについて、杉並区という地域、杉並区の子どもたちを見据えたビジョンだということを認識していく必要があると思います。そういった意味では、委員の皆様にもこの教育ビジョンの内容を十分理解していただきたいと思います。その上で、これから杉並区の教育をどのように具体化するかという一つの場として、この学校づくりの中で意見が交わされればと思います。やはり、学力の問題、人間性をつくる問題、どういう場所でどういう生活環境をつくっていくのか、そういったことを話し合っていくのがこの場であると思います。

二点目は、今後地域と一緒に活動していく上で、施設の問題は大きくなっていくということです。杉並区では震災救護所の一斉立ち上げなども先進的に行っております中で、住民の避難するスペースが足りないということが大きな課題としてあります。そういった中で震災時避難所としてこの学校が大きな役割を果たしていくことを考える必要があります。

三点目は特別支援教育に関しまして、オープンスペースについてどうつくるかという点がございます。

先程、ご紹介いただいた事例の中にもありましたが、むしろあえて閉じてつくっている学校もあります。閉じてはいますが、ガラス張りにして見通せるようにするなど、今、いろいろな考え方が出てきています。そういう意味では、オープンスペースについて、皆様から様々なご意見をいただきながら、考えていきたいと思います。

< 委員 >

今は理想について議論をしておりますが、予算は限られていると思いますので、いつか、理想と予算とのバランスについて考えなければならない時が来ます。あまり理想ばかり言ってもという部分もありますので、そのあたりを皆さんよくお考えになりながら、新しい学校づくりにご協力いただければと思います。

< 委員 >

今日はよい見学ができました。オープンスペースのスタイルの学校に感心しました。今までの日本の小学校は、長野県松本市にある日本最古の小学校、このスタイルが今でも延々と続いているわけです。杉並第十小学校はもう築20年になるそうですが、オープンスペースのスタイルで、これはよいと思いました。

すでに統合新校を建設する敷地は現在杉並第五小学校の約6,600㎡の土地に決まっているわけですから、この約6,600㎡をいかに利用するかを考えた時に、一つのポイントとなるのは光と広さだと思います。

杉並第十小学校は、公園と学校が一体化しており、プールも地域の方が使えるようになっており、学校と地域が共有して使えるスタイルになっています。こういうものが学校と地域の連携といえますか、本当にこの地域に学校があるよという感覚が上手く表現されているなと思いました。これからはおそらくそういった形が望まれると思います。

今日の資料の中にも安全・防犯・耐震化という項目がありますが、すでに学校は地域の中で適当な広さを備えた避難場所として認識されています。子どもたちの教育現場プラス、地域への密着度、これが重要だと思います。

杉並第十小の地下のプールは非常によかったです。非常に広いドライエリアを設けているおかげで、地下とは思えない空間でした。しかし、こういったことが約6,600㎡の杉並第五小の校地で果たして行えるでしょうか。現実に与えられた面積と理想とのバランスを考えることが一つのテーマになると思います。

< 委員 >

学校事例の紹介をしていただいた学校では、周りに緑があって、そこから来る風を利用したりしていましたが、残念ながら杉並第五小学校の周りにはそういったまとまった緑や公園はありません。

なかなか子どもたちがのびのびと遊ぶスペースがこの地域にはないので、学校の中にはできるだけ子どもたちが遊べるスペースを確保していただきたいと思います。たとえば屋上緑化や

ビオトープなどをつくることによって子どもたちが走り回れるスペースが減ることのないように、また、校庭緑化などで、芝生化した場合、養生期間に子どもたちが遊べなくなりますので、そういった養生期間のいらぬ草を使っただけでないかと思います。

また、暑さ対策についてですが、暑い国や地域では必ず幅の大きい庇や軒があります。ぜひ新しい校舎にはベランダをつけていただきたいと思います。

4年生の教室のベランダによしずを張っただけでかなりの気温差を感じましたので、そういったことが可能になるように、ベランダは必ずつけていただきたいと思います。

#### < 委員 >

区の方で、今までのオープンスペースの使用状況を検証した資料のようなものがあれば、今後お出しいただければと思います。

杉並第十小学校を見せていただいて、こういったものがあるのかと既製概念を打ち破られましたが、いくつか気になった点もありました。まず、音はどうなのかということです。また、空間を閉じる必要がある場合にどうするのかということもあります。

確かに、細かく学習集団を分けて授業を行う場合に、ああいった形は有効かと思いますが、音の問題など、実際に使った経過の資料があればと思います。

また、廊下と教室の間の壁は動かすことができても、教室と教室間の壁を可動式にすることはできないのでしょうか。

それと、先程の委員の方もおっしゃっていましたが、緑化やビオトープづくりなどをすればするほど、子どもたちの遊ぶスペースが少なくなってしまうのではないかと思います。限られた敷地の中に建設するわけですから、そういったことも考慮していただきたいと思います。

#### < 委員 >

先程の学校事例の中で、小さな部屋をつくるということがあったのですが、特別支援教育の子どもたちや、学習障害を持った子どもたちに限らず、健常児であってもクラスになじみにくい子の割合が増えてきていて、クラスの中でやっていけないというようになってしまった時に、今はたとえば職員室に引き取っていただいて副校長先生が見て下さるとか、そういう状況になっていると思うのですが、たとえば小さな部屋をつかってそういう子どもたちが補助教員の先生とそこに入って落ち着くまで静かに環境を整えるとか、クラスからあまり隔絶せずに元に戻りやすいような、環境をつくっていただきたいと思います。特別支援教育によって、相当程度障害を持つ子どもも入ってくるということもあり、そういったスペースは必要だと思います。

また、桃井第五小学校を改築した際に、門や校庭などを開いて、開かれた学校にするという

試みを行っていて、池田小の事件があってから、物理的に門などは閉じるようになっていくということですが、統合新校はどのような形で作るのでしょうか。

それから、建物の上に木や土が乗るのは耐久性などの観点から問題はないのでしょうか。そのあたりもお答え願いたいと思います。

< 委員 >

杉並第十小学校のオープン教室を見て、やはり隣の声が聞こえるのではないかと感じました。また、杉並第十小、桃井第五小などの大規模ではなく、統合新校と同じぐらいの規模の学校について参考として見学できないかなと思います。難しいかもしれませんが、子どもが実際に授業を行っている時に見学できればと思います。

< 委員 >

私の子どもは学校の芝生の上でサッカーをすることが夢なのですが、学校に芝生があって、緑があって、自然な空気が流れているというのは本当に理想的だと思いました。今日部会長から紹介していただいた学校につきましても、こんな学校だったら毎日楽しく、子どもがいきたいと思えるだろうなと思いました。ただ、実際問題として、この統合新校の敷地であれだけのことをするのは無理だと思います。これだけの敷地の中でどれだけのものができるのかを、専門家の方の立場から提示していただけるともっとよく考えられると思いますので、先程の委員の方がおっしゃったように見学という形や、見学できなくてもスライドなどで紹介していただければと思います。

< 委員 >

新聞で公立学校の普通教室の冷房設置率と記事を見たのですが、杉並区は2.1%ですが、23区はほとんどの区が100%でした。こうした暑い都市環境ですので、校舎の断熱性をよくした上で、ぜひ冷房を入れていただきたいと思います。また、冬も化石燃料を燃やすタイプの暖房ではなく、ヒートポンプ式のものの方が環境によいと考えます。それにより、夏も冬も快適な学習環境がつかれると思います。

自然採冷ということで、校舎に植栽など配慮していくのも、やはりお金がかかります。どちらがお金がかかるのかということなども細かく検討すればよいと思います。

また、子どもたちには将来のエネルギーについて学習していただきたいと思いますので、太陽光発電、風力発電など、環境教育ができる程度の規模でよいですから、設置していただきたいと思います。

それから、災害時には電気やガスの供給が止まってしまうことが予想されますので、自家発電設備を備えていただきたいと思います。体育館の電灯をまかなえるぐらいのものはほしいと思います。

<委員>

現在杉並区内に建っているオープン教室の校舎の小学校について、使い勝手、良し悪しなどをまとめて提出していただければと思います。

新しい学校は地域開放型の学校であってほしいと思います。特別教室と呼ばれる、音楽室、図工室、家庭科室、理科室、コンピューター室、図書室、視聴覚室などが、地域開放型となつて、普通教室のゾーンとは分けて計画するなど、そういったことを考えていければと思います。地域開放型のコミュニティスペースなども併設されるとよいと思います。土曜日学校などの活動を行っている立場としてそういったスペースがあると嬉しいです。

また、校内の IT 環境の整備も進めていただきたいと思います。たとえば、今日部会長が行って下さった学校紹介もスライドによるものでしたが、そういった映像によって授業を行うということもこれから多くなると思いますが、そういった時に教室を暗くしなければならないので、メモをとりづらくなるということがありますが、照明などを工夫することによって、メモはとりやすく、映像もよく見えるような教室づくりを行っていただくというようなことも考えていただきたいと思います。

それから、現在の杉並第五小学校は視聴覚室のような広いスペースがなくて、先生方もそういったスペースがほしいとおっしゃっていますが、広いスペースであると同時に、少人数学習にも対応できる狭いスペースもつくれるとか、多目的に使える工夫をしていただきたいと思います。

それと、屋上緑化についてですが、この敷地に建つ学校にとって、屋上は子どもたちにとって貴重な運動の場でありますので、緑化をするにしても、屋上の上に藤棚を設けるなど、子どもたちが運動の場として屋上を使えるような形にすればよいのではないかと思います。

<委員>

この敷地ですので、1階部分を全て校庭として使い、子どもたちが十二分に走り回れるようにしていただきたいと思います。

また、今は昔より気温も高くなっておりますので、屋上緑化や太陽光発電などではなくて、冷房を入れていただきたいと思います。大幅に教室の温度を下げるというのではなく、区役所が行っておりますように、28 ぐらいの設定で行えばよいのではないかと思います。

< 委員 >

私は学校の現場の人間と子どもたちにとって、何が一番必要かを考えていく必要があると思います。「先進的」で「かわいい」ものは多くあって、そういったものを取り入れたいという気持ちももちろん皆さんあると思いますが、どうしても客観的になってしまいがちですので、本当に現場の先生方と子どもたちには何が必要なのか、注意して考えていきたいと思います。今日も非常に暑いですが、この暑さを本当にどうすればいいのか、冷房がよいのか、緑化がよいのか、など何が本当に必要で何が不要かよく考えなければなりません。たとえばカーペットについてですが、床に座れてよいだとか、よい所もありますが、アレルギーの子どもしたことなど、やはり衛生上の問題を考えると駄目だと私は思います。先進的なものについても、後で無用の長物とならないように、長い計画で考えたいと思います。

また、プールについてですが、若杉小学校の敷地に地域の方が利用できるプール付きのスポーツ施設をつくって、統合新校にはプールをつくらずに子どもたちはプールの授業の時はそこに通うというのも一つの案だと思います。移動に時間をとられるというのであれば、プールの授業時だけ体育を2時間続きにするなどすれば対応可能かと思います。

< 委員 >

何か統合新校の建物に、子どもたちにとってシンボルになるようなものがあればよいと思います。大きな木であってもよいし、時計台でもよいと思います。そのシンボルは地域にとってのランドマークにもなるように地域住民にとってもこの学校が親しみを持てるように、そういったものがあるとよいと思います。

また、学校開放は、たとえば授業中でも地域の方に使っていただくということがあってもよいのではないかと思います。子どもたちが勉強しているそばのオープンスペースで高齢者の方が何か作業をしているというような、子どもも高齢者も同時にいる状態というのも、地域の中の学校としての一つのステップだと思います。

先程、部会長から事例紹介された多治見中学校で、地域の方が通り抜ける道があり、地域の方が授業中の中学校を通り抜けていく、というのが非常に興味深かったです。

< 委員 >

先程、委員の方がおっしゃっていましたが、私もオープン教室についての何らかの資料が杉並区にありましたら、出していただけたらと思います。また、学校施設が地域に開放されることを私も願っております。皆さんのご意見をお聞きして思いましてのは、今後皆さんのご意見の最大公約数としての総論をつくっていかなければならないということです。そのため

に努力していきたいと考えております。

< 委員 >

杉並第十小学校を視察した時に、窓辺に柵が置いてあって、窓の外には手すりがあるだけの所があって、なんでこんな危ない場所があるのかと思いました。こういうことは設計の段階で分かることだと思いますので、安全面については十分注意して設計していただきたいと思っています。

< 若杉小学校副校長 >

私は一つだけ、子どもも地域も使用しやすい学校、この点をお願いしたいと思います。

また、部会長の事例紹介を見ながら、本当に緑、植物は学校にとって大事なのだなと思いました。私は前任校で永福南小学校にありまして、昇降口入りますと上まで吹き抜けになっていて、とても気持ちよかったです。また、校舎と校舎の間が中庭になってありまして、とても明るかったです。敷地の面積など様々な課題がありますが、できる範囲で今日のお話が生かせたら素晴らしい学校になるのではないかと思います。

< 杉並第五小学校副校長 >

今日杉並第十小学校を見せていただきまして、杉並第五小学校の敷地とは大分面積が異なりますが、活かせるものは活かしていけるように委員の皆様のご意見をお伺いしていきたいと思っています。

また、部会長の事例紹介の中で、ウッドデッキがよいなと思いました。コンクリートでは味気ないと思います。それと、単に木が植えてあるだけでなく、生活空間の中で植えられているのがよいと思いました。

< 部会長 >

ありがとうございました。それでは、今までの委員の皆さんのご意見の中で出ましたご質問につきまして、事務局よりお答えをお願いします。

< 学校適正配置担当課長 >

オープン教室についての学校現場の利用状況や教育委員会の考え方、屋上を緑化する場合にどのぐらいの植栽を載せることができるか、教室のタテヨコの壁の関係は自由に可動させるようにすることはできるのか、など様々なご質問等ございましたので、今日の記録をまとめさせていただきます。次回にまた必要な資料等を提出させていただきます、論議を深めていただければ

ばと思います。安全面ということも大きな論点の一つだと思います。基本的にこの学校は杉並第十小学校のように塀オープンな形でつくることは考えておりません。フェンス、校庭側には高いネットフェンス、門もきちんをつくることを考えておりますが、ただ物理的な閉鎖と学校をオープンにするということは別の話でございまして、安全を考えて物理的には閉鎖しつつも地域には開いていく、そういったことを考えながら進めてまいります。今日いろいろ出されましたご意見につきましては、整理させていただき、次回に提出させていただきたいと思います。

#### 7 事務局からの連絡事項

#### 8 閉会